

# 中海・宍道湖圏域市議会議長会からの令和8年度国・県政に対する要望への回答

番号	区分	項目	要望内容	回答	担当部局
1	継続	「中海・宍道湖『8の字ルート』高規格道路」の整備推進について (米子市) 《重点要望項目》	<p>中海・宍道湖圏域は、日本海側有数の人口集積地域で、山陰の中核をなしており、数多くの歴史・文化・観光資源、特定第三種漁港、重要港湾や二つの空港を有している。</p> <p>しかし、圏域における道路交通に関しては、市街地を中心に交通量が集中し交通混雑が慢性化している。さらに高速道路や港湾・空港など交通拠点とのアクセス性が低く、経済活動や観光振興に資する広域交流の機能が脆弱であることが課題となっている。また、近年では、全国各地で地震・豪雨・雪害などの自然災害が激甚化・頻発化しており、災害から迅速に復旧し、早期に日常生活・経済活動が再開できるよう、継続して機能する高規格道路ネットワークの整備が求められている。特に重要なのが、中海・宍道湖を介して8の字につながる高規格道路「中海・宍道湖8の字ルート」の整備であるが、東側を南北に結ぶ「米子・境港間高規格道路」は未整備であり、また北側を東西に結ぶ「境港出雲道路」は一部区間が供用されたのみであり、ミッシングリンクが多く残っている状況である。</p> <p>こうしたなか、令和5年度には、「中海・宍道湖8の字ルート整備促進会議」が設立され、今年度には、「米子・境港間高規格道路」が計画段階評価を進めるための調査箇所に選定されたことにより、圏域の発展を目指す高規格道路の整備促進への取り組みを強化することが重要である。</p> <p>人口減少社会においても、この圏域が持つ特長を最大限に發揮し、自立的で継続可能な発展を図るために、ミッシングリンクを解消し、地域間の人流・物流を円滑化・活性化する、高規格道路ネットワーク「中海・宍道湖8の字ルート」の完成が不可欠であるため、国・県・関係市との強力な連携のもと、早期整備を推進していただくよう強く要望する。</p>	<p>米子・境港間の高規格道路に関して、令和7年度国土交通省関係予算において計画段階評価を進めるための調査が決定しました。また6月13日に、第1回目の計画段階評価となる「社会資本整備審議会道路分科会 中国地方小委員会」が開催されました。さらに、11月7日には中国横断自動車道岡山米子線（蒜山IC～境港間）整備促進期成同盟会と合同で「中国横断自動車道岡山米子線（蒜山 IC～境港間）整備促進総決起大会」をし、11月26日には早期事業化について国要望を実施しました。</p> <p>中海・宍道湖8の字ルートに関して、10月22日に鳥取県・島根県・中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議と合同で「中海・宍道湖8の字ルート整備促進総決起大会」を開催しました。</p> <p>圏域における整備促進に向けた機運は非常に高まっており、今後とも国や関係自治体等と連携して要望活動を実施する等、8の字ルートの整備促進を国に働きかけていきます。</p>	県土整備部 (道路企画課)

番号	区分	項目	要望内容	回答	担当部局
2	新規	中海・宍道湖圏域におけるブルーカーボン・オフセット事業 「海のゆりかご里海づくり」の推進について (境港市) 《重点要望項目》	<p>斐伊川水系にある中海・宍道湖は、古くは「海のゆりかご」と称される魚介類の産卵場・育成場が広範囲に広がっており、貴重な水産生物の生育場として豊かな中海・宍道湖水域を形成していた。</p> <p>境港市は、基幹産業の水産業を支えるとともに、令和3年2月に2050年までに二酸化炭素実質排出量をゼロにする「ゼロカーボンシティ」を宣言していることから、水質の浄化機能を有する人口浅場及び藻場の造成並びに浚渫くぼ地の埋め戻し等自然環境の再生に向け、市民や事業者とともにゼロカーボン活動を積極的に展開している。</p> <p>については、中海・宍道湖圏域全域にゼロカーボン事業を拡大し、中海・宍道湖の水産資源の保全・ブルーカーボン事業を強化するとともにオフセット事業を活用するなど「海のゆりかご里海づくり」事業を鳥取県・島根県を中心に圏域自治体全体で協働し、2050年までにゼロカーボン実現に向けて取り組むよう強く要望する。</p>	<p>県水産試験場では、マハゼ等の餌料環境の向上を図るため、中海の沿岸に広く分布するウミトラノオの藻場造成マニュアルを令和7年3月に作成したところです。</p> <p>また、当該マニュアルを活用した藻場造成は、中海・宍道湖圏域の水産資源の保全やブルーカーボンの取組に寄与するものであり、令和7年度から境港市が中浜港で行っている藻場造成実証実験に水産試験場も協力し、技術指導を行っているところです。</p> <p>県としても、引き続き当該実証試験に協力していくとともに、ブルーカーボンの更なる取組の推進に向け、令和7年8月8日及び11月26日に国に対しブルーカーボンクレジットを公的認証として制度化するよう要望を行っています。</p> <p>国も令和7年8月12日に関係省庁が連携したブルーカーボンに関する検討会で議論が始まったところであります、国の検討会の動向を注視しながら、必要に応じて国に要望したいと考えています。</p>	農林水産部 (漁業調整課)

番号	区分	項目	要望内容	回答	担当部局
3	継続	山陰への高速鉄道の実現について (松江市) <b>《重点要望項目》</b>	<p>新幹線は、経済発展や地域活性化の牽引役となる重要な社会インフラであり、我が国の国土軸を成すものであるが、山陰地方の新幹線の整備については、全国新幹線鉄道整備法に基づき、昭和48年に山陰新幹線及び中国横断新幹線が基本計画路線に決定しているものの、その後具体的な進展がない。</p> <p>中海・宍道湖圏域には約63万人が集積し、日本海側の中核をなす都市圏を形成しており、国内外の交流、交易の拠点として大きな魅力と可能性を有しているにもかかわらず、基幹道路や高速鉄道等の基幹的な社会基盤の整備が、国内他地域に比べ格段に遅れをとっている。その発展にとって不利な状況が続いている。</p> <p>加えて、京阪神と九州を結ぶ山陽新幹線には代替ルートがなく、万が一途絶した場合には、日本の経済や社会全体に甚大な損失をもたらすことが確実であり、災害に強い交通ネットワークの形成を速やかに図ることが重要かつ不可欠である。</p> <p>山陰新幹線については、県内の関係自治体も加盟する「山陰縦貫・超高速鉄道整備推進市町会議」において、山陰新幹線の早期実現に向けた機運の醸成や国への要望等を行ってきたところである。また、中国横断新幹線については、令和元年に、中海・宍道湖・大山圏域の自治体・議会・経済団体が一体となって「中国横断新幹線（伯備新幹線）整備推進会議」が設立され、新幹線の早期整備を目指した運動を実施しているところである。</p> <p>については、国土の均衡ある発展や大規模災害時の代替機能の確保の観点から、山陰新幹線及び中国横断新幹線（伯備新幹線）を整備計画路線に格上げするため、関係する県と一層連携を図るとともに、国への働きかけを強化されるよう要望する。</p>	<p>日本海国土軸の形成やリダンダンシー確保、東京一極集中や地域間格差の是正及び産業振興等、地域の活性化のためには、山陰新幹線及び中国横断新幹線（伯備新幹線）の整備は重要と認識しております、これまで山陰新幹線建設促進期成同盟会（代表世話人）や中国横断新幹線整備促進協議会として、隣接他府県や沿線市町とも連携しつつ、粘り強く、整備計画路線への格上げや並行在来線経営分離方針の見直し等について、国等への要望活動を展開しております、今年も8月に要望を行いました（山陰新幹線建設促進期成同盟会・県版地方6団体）。来年1月には、全国の基本計画路線関係団体が一堂に会し、国に対して声を挙げていく全国大会の開催も予定されており、こうした機会も活用し、国等への働きかけを強めてまいります。</p>	輝くとっとり 創造本部（交通政策課）

番号	区分	項目	要望内容	回答	担当部局
4	継続	高規格道路「境港出雲道路」の早期整備について (出雲市) 《重点要望項目》	<p>中海・宍道湖圏域は、日本海側有数の都市圏であり、製造業やIT産業をはじめとした産業の集積地であるとともに、数多くの文化、観光資源にも恵まれており、これからの方創生をリードしていく拠点地域である。</p> <p>「境港出雲道路」は、山陰道とともに中海・宍道湖圏域を8の字で結ぶ高規格道路ネットワークの構成路線として、経済、産業、観光など圏域全体の発展に限りない効果をもたらすものである。</p> <p>また、近年、全国各地で地震・豪雨・豪雪などの自然災害が激甚化・頻発化する中にあって、昨年1月に大規模な地震が発生した能登半島と同様に、半島部への緊急輸送道路の確保、迅速な災害復旧、社会経済活動の再開のために、災害に強い高規格道路ネットワークの整備が求められている。</p> <p>しかしながら、8の字ルートを構成する南側の山陰道は暫定2車線による整備が完了したのに対し、北側の「境港出雲道路」は、一部区間が供用されたのみで、いまだに多くのルート未着手区間が残されている状況である。</p> <p>現在、「境港出雲道路」を含む8の字ルートの整備促進に向けて、かつてないほどの機運の高まりを見せており、令和5年度には、圏域の市長会、議長会、経済団体などが広く参画した「中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議」が設立され、令和6年度には8の字ルートのロゴマークの公募などにより圏域住民の認知度向上や整備促進に向けた機運醸成が図られているところである。</p> <p>さらに、本年3月には出雲市商工団体協議会による「宍道湖・中海8の字ルートシンポジウム」も開催され、パネルディスカッションを通して圏域の将来像が語られるとともに、8の字ルートの早期全線整備に向けた取組を推進することが確認された。</p> <p>このように「境港出雲道路」の整備促進に向けた動きが進展している状況も踏まえ、関係者の強力な連携のもと、「境港出雲道路」の全線整備に向けて更なるご尽力をいただくよう強く要望する。</p>	<p>境港出雲道路に関して、令和2年度に国・島根県・鳥取県・関係市村が参加して開催された「中海・宍道湖圏域道路整備勉強会」において、今後の進め方として「機能強化に向け、関係自治体が連携して整備方針の検討を実施」と整理されました。また、令和7年8月～9月にかけて道路計画検討に関する意識調査が実施されました。</p> <p>中海・宍道湖8の字ルートに関して、10月22日に鳥取県・島根県・中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議と合同で「中海・宍道湖8の字ルート整備促進総決起大会」を開催しました。</p> <p>圏域における整備促進に向けた機運は非常に高まっています。境港出雲道路は全線島根県内ですが、米子・境港間の高規格道路とともに中海・宍道湖8の字ルートを形成する重要な道路と考えており、早期整備のため国や島根県と連携を図っていきます。</p>	国土整備部 (道路企画課)

番号	区分	項目	要望内容	回答	担当部局
5	新規	地方創生の実現について (安来市) <b>《重点要望項目》</b>	<p>地方創生の取り組みが本格的に始まってから10年が経過した。この間、全国の自治体が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、持続可能なまちづくりに向けて、様々な施策が展開されたが、「人口減少への歯止め」並びに「東京圏への人口の過度な集中の是正」は達成されていない。</p> <p>少子高齢化の進行は、ますます地方を疲弊させ、人口の東京圏への一極集中は、将来予測されている「南海トラフ地震」など大規模災害が発生した場合、社会・経済が甚大な打撃を被るリスクをはらんでおり、人口の地方回帰、すなわち『地方創生』の実現は、いよいよ、まったくなしの状況にある。</p> <p>持続可能なまちづくりを実現させるためには、様々な施策が必要だが、生活の糧を得るために雇用の場がまずもって必要となる。これまで、自治体は、地元企業への支援や企業誘致を進めてきたが、地方からの人口流出を食い止めるには至っていない。</p> <p>については、次のことについて、国へ働きかけるよう要望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業の地方移転に係る税制上のさらなる優遇制度を創設すること。</li> <li>2 政府関係機関の地方移転は、人口の地方回帰に有効なほか、大規模災害時のリスク回避にもなるため、さらに推進すること。また、移転に伴う負担を自治体に求めないこと。</li> </ol>	<p>国へ働きかけるよう要望いただいた内容については、従来から全国知事会等と連携し、国に要望を行っているところであります、今年度も、11月5日に全国知事会から、国に対して「地方拠点強化税制の継続及び、同税制の税額控除率の引き上げなど制度の拡充」を要請しています。また、11月27日に関西広域連合から、「政府関係機関を始めとする全ての国家機関を対象とした地方への移転分散」を要請しており、引き続き、国に対して働きかけてまいります。</p>	令和の改新戦略本部（令和の改新推進課）